

Sermon on the Plain 知っておきたいキリスト教のことば (181)

サーモン オン ザ ブレイン 平地の説教 へいちのせっきょう

「山上の説教」という有名なイエス様の説教があります。マタイによる福音書 5 章から 7 章にわたるたいへん長い説教です。その 5 章 1～2 節にはこのように書かれています。

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

つまりイエス様が山に登って教えられたので、「山上の説教」というわけです。

それに対してルカによる福音書 6 章 20～49 節を「平地の説教」と呼びます。これは山上の説教の短縮版とも言えるものですが、まず語られた場所が違います。説教を語る直前のルカ 6:17 に、「イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった」とあります。だから「平地の説教」なのです。

平地で語るということは、自分の力だけで山に登ることができない人のそばに来るということです。つまりイエス様の元に行く力がなくても、イエス様が来られるということの意味なのです。

それぞれの内容を見てみると、最初の部分で山上の説教が 8 つの幸いを語っているのに対し、平地の説教では 4 つの幸いと 4 つの不幸を語っているという違いがみられます。

また山上の説教で「心の貧しい人々は、幸いである」という箇所が、「貧しい人々は、幸いである」となっています。

平地の説教は現在人々が置かれている具体的な状況について語られ、人々に倫理的な教えを伝えている側面が強いと言われています。みなさんはどの部分が、心に刺さるでしょうか。

次回は「平和」です。お楽しみに。



「ちりと梁」

ピエテル・モルティエ
(1661～1711年)

しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、
あなたがたはもう慰めを受けている。
(ルカによる福音書 6 章 24 節)

